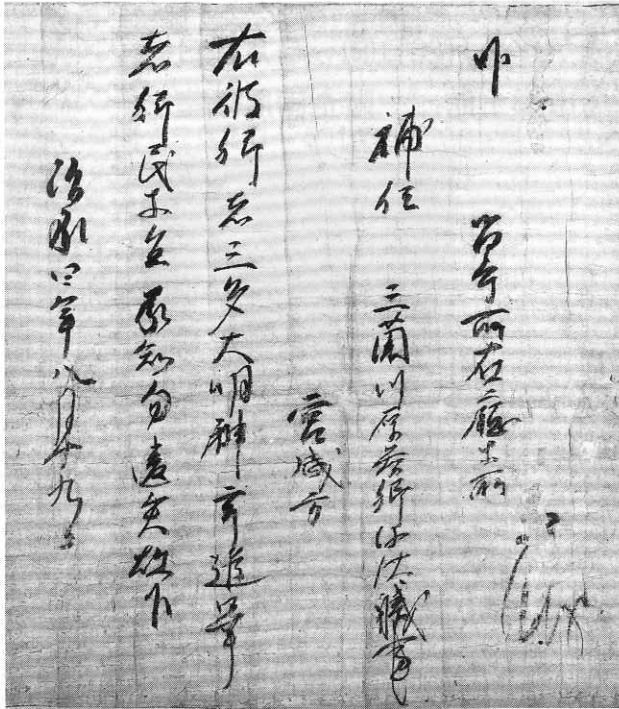


# 郷土館だより

Vol. 17. No.3

1995. 3. 31



## 源 頼朝 下文

(治承4年1180年8月19日)

三嶋大社文書

下 留守所在廳等所

補任 三嶋川原谷郷沙汰職事

宮盛方

右彼郷者三嶋大明神寄進畢者郷民等宜承知勿違失故下

治承四年八月十九日

(花押) (源頼朝)

三嶋大社が所蔵するこの文書は、現存する源頼朝文書の中で最も古いものです。

内容は三嶋大明神(三嶋大社)へ三園郷、川原ヶ谷郷(いずれも三島市)を寄進したので、三嶋神主盛方に沙汰するよう命じたもの。両所は古くからの神領という誇りを持ち、大社の祭礼にも奉仕しています。

治承4年(1180)8月17日、頼朝は三嶋大明神の祭礼の日に合わせて、平家追討の旗挙げをし、葦山の山木判官兼隆を打ち破っています。源氏再興の百日の祈願に通うなど、信仰心の厚い頼朝が明神への感謝を表したものでしょう。

また文書の様式で目を引くのは頼朝の花押が日付の後ではなく、文書の右部分(袖)に署される「袖判下文」である点です。「花押」とは文書が自筆でなくても花押を署することで自筆文書と認定し、責任を明確にするものです。頼朝

の花押は「頼」の扁<sup>へん</sup>「束」と「朝」の旁<sup>つくり</sup>「月」とを合わせて形成されています。

「袖判」は受け取る側への権威を示し、他所への判より尊大な書式と考えられています。頼朝の「袖判下文」は従四位下に叙せられた寿永3年(1184)から文治5年(1189)に集中し、後に「政所<sup>まんどころ</sup>」を開設すると「政所下文」となっています。寿永2年(1183)までは「下文」と「袖判下文」が混在し、この文書が頼朝の「袖判下文」の初見にもあたるところから、検討が要されています。

尚、昨年、三嶋大社及び矢田部宮司家が所蔵する大社関係の中世文書が一括して国の重要文化財に指定されました。三島や伊豆の歴史を知る上でも大変貴重な古文書です。

(企画展「三島の成り立ちⅠ」に展示) (展示期間 4月28日(金)~5月7日(日))

# 企画展 「三島の成り立ち I」

～ 戦国時代までの三島の自然環境・道・歴史～

会期 平成7年2月26日(日)～5月7日(日)

会場 三島市郷土館 一階企画展示室

三島は伊豆半島の付け根に位置し、古代より伊豆の中心として繁栄し、伊豆半島の拠点となった歴史の町です。

原始時代、箱根西麓を生活の拠点としていた旧石器や縄文期の古代人が、弥生時代に入ると水田耕作を行うようになり平地へ下ってきました。やがて村が成立し、経済基盤の充実とともに国府が置かれ、国分寺・国分尼寺が創られます。

また三嶋社(三嶋大社)は平安末期から中世にかけて、伊豆の人々の大きな信仰基盤でした。特に流人として伊豆へ下った源頼朝は三嶋社を厚く崇敬し、鎌倉幕府を開いた後、三嶋社を核に道・町並を整えます。ここから三島の中世文化が花開きます。

こうした三島の古代から中世までの三島の町の成り立ちを当地に残された様々な資料で市民にわかり易く展示解説しました。

## ■主な展示品

### 〔三島の歴史・地形図〕

三島の中心部を1m間隔の等高線で立体模型を作成。大社、国分寺等の立地条件を読みとる。

### 〔奈良橋向遺跡(東本町)出土 木製品・土器〕

3～4世紀、弥生時代の三島の集落を知る。

### 〔伊豆国分寺・市ヶ原廃寺 瓦〕

白鳳期・奈良期の三島の大寺院をしのぶ。



▲頼朝木像(宗徳院)



成就地藏  
地藏菩薩立像(西福寺)

### 〔才塚遺跡(東本町)出土 石帯飾石(メノウ)〕

伊豆国府と関係深いと考えられる掘立柱建物跡の柱穴が発見された。メノウは当時四位の役人に使用が許された。

### 〔三嶋大社境内遺跡出土 中世輸入陶磁片他〕

社務所建設に伴う発掘調査では、多量のかわらけ等を捨てた穴が発見された。

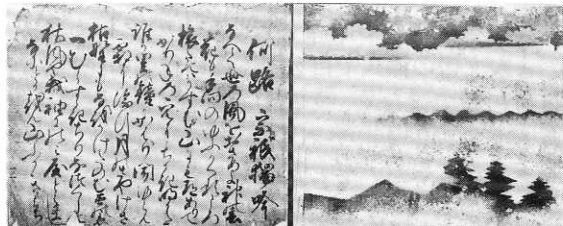
### 〔頼朝木像〕(宗徳院)

信仰心の厚い頼朝は宗徳院(松本)へよく足を運んだという。

### 〔三嶋大社矢田部家文書〕(三嶋大社・矢田部宮司家)

(展示期間 3月21日～4月2日 4月28日～5月7日)

重要文化財に指定された中世文書のうち11点(頼朝・尊氏・義詮・義満・北条早雲・秀吉他)と、宗祇が三嶋社に奉納した「三島千句」(江戸時代の写し)を展示。



▲宗祇「三島の千句」(三嶋大社 矢田部家文書)

## 〔頼朝装束〕(中島伊達家旧蔵)

源頼朝が安久の7人の百姓に三嶋社への代参を命じたことから始まった「頼朝」の明治まで使用された装束。

## 〔一遍上人絵伝 卷六三嶋社詣(複製)〕(清浄光寺)

鎌倉末期に三嶋社を詣でた一遍上人と、当時の三嶋の様子が鮮明に描かれている。

(展示期間 5月1日～5月7日)

## 〔尊観法親王尊影〕(西福寺)

南朝の有力者であり後に遊行12世となった尊観法親王は西福寺に逗留していた。

## 〔地藏菩薩立像(成就地蔵)〕(西福寺)

尊観法親王の持仏と伝わる。

南朝の天下統一を願ったといわれる。

## 〔左文字茶釜〕

足利二代將軍義詮開基の寺。足利氏から寄贈された古天明の茶釜。左文字で鋳出されている。

## 〔日出上人・日朝上人書状他〕(本覚寺)

本覚寺(泉町)開山の日出上人の誓願状、後に身延山法主となる日朝上人の本尊・書状・肖像

## 〔板碑〕(光安寺)

箱根より西には珍しい中世の供養碑。秩父緑岩に彫られている。

## 〔後北条氏朱印状〕(函南町 森家)

北条氏が山中城築城のため近隣の百姓を人夫として徴用した文書他。

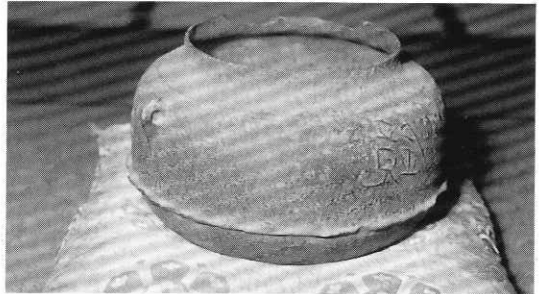
## 〔山中城出土遺物〕

鉄砲玉・甲の前立・硯・陶器他。天正18年(1590)3月29日、物量ともすぐれた豊臣秀吉軍の前に、小田原城の出城、山中城は半日で落城した激戦を物語る。

## 〔故信上人関係文書〕(本覚寺、川口家)

武田信玄の子と伝わる故信上人は、従者達と三島に定住。名号・人物画他。

この他、三島の自然・遺跡・中世の街道・頼朝関係の遺跡・伝統芸能・三島暦などが紹介されています。



▲左文字茶釜(宝鏡院)

## ■報告

## 企画展

## 「三島の石造物」

平成6年10月23日から平成7年1月16日まで開催をしました「三島の石造物」展が終了しましたので報告します。

三島市内の路傍など身近な場所に時折見かける石造物があります。今回の企画展では、かつて習わしとして盛んに行なわれたであろう民間信仰をテーマにサイの神、庚申塔、唯念名号塔、徳本名号塔を写真展示しました。また当時の社会である集落の共同体の営みを知る貴重な史料であり、現存調査になりました。

展示にご協力下さいました皆様に厚くお礼申し上げます。特に期間中「三島の石造物めぐり」講座を盛況のうちに催すことができましたことに、講師鈴木辰己氏には厚くお礼申し上げます。

企画展「三島の石造物」入館者

会期 平成6年10月23日～平成7年1月16日

15,346人

## 企画展関連講座

## 「三島の石造物めぐり」

企画展「三島の石造物」で紹介されている石造物のうち市内に残されている唯念碑(14ヶ所)を訪ね歩く講座を実施しました。

(12月16日、20人)

鈴木辰己氏(郷土館運営委員)の案内により、唯念上人(寛政2年、1800～明治13年、1880)が「南無阿弥陀仏」と独特の文字で大書きした「六字名号塔」を見学しました。これは唯念上人の影響で組織された各村々の「念仏講」によって建立されたものです。江戸時代末～明治初期に、大きな石造物を建立させた信仰心に、多くの受講者は興味を持ったようでした。



▲連馨寺(広小路町)門前の唯念碑を見学

## 郷土館講座「三島の成り立ち」報告

郷土館では、現在の三島を構成している自然的要因・歴史的要因を様々な角度から眺めてみる講演会（全5回）を実施しました。

会場が、図書館の移転のため、急に文化会館大会議室から小ホールに変更されましたが、大盛況でした。郷土館講座の受講者数は年々増加する傾向にあり、市民の学習意欲の高まりを感じます。

### (1)「三島の自然環境」

日本大学助教授 加藤雅功氏  
伊豆半島と三島の位置の特徴・富士山の形成とその溶岩の特徴、三島の地質の特徴、三島湧水と土地利用について、多くの図表を用いながら話され、密度の濃い内容でした。

(11月4日, 152人)

### (2)「古代の集落の推移と遺跡」

三島市教育委員会社会教育課 鈴木敏中学芸員  
約2万8千年前から江戸時代にかけて、市内に残る主な遺跡の概要を、スライド約200枚を利用して解説しました。(11月15日, 193人)

### (3)「四辻の町—三島」

三島市郷土館 杉村齊館長  
三島を造り上げたのは3本の道—東海道・下田街道・甲州街道であり、その四辻の町である三島の各時代を論じました。(11月24日, 142人)

### (4)「箱根路の変遷」

箱根町立郷土資料館前館長 加藤利之氏  
ヤマトタケルの時代から江戸初期まで、箱根路の変遷を史料を基に明快に話されました。また中世の関所の問題・宿駅について詳しく言及されました。(12月8日, 135人)

### (5)「鉄道網の発達と三島の盛衰」

沼津市明治資料館学芸員 樋口雄彦氏  
明治22年の東海道線開通は宿場町三島に大きな打撃を与えました。また、豆相鉄道(現、伊豆箱根鉄道)敷設の経過、丹那トンネル工事の濁水騒動など、北伊豆の鉄道に関する裏話等を新聞資料を中心に披露されました。

(12月21日, 125人)

## 郷土館「ふるさと講座」報告

市民を対象に、市内を4地域(北上・錦田・中郷・旧三島町)に分け、それぞれの史跡めぐりを通じて三島の歴史・文化・民俗に対する理解を深めてもらう「ふるさと講座」(全4回)を実施しました。

倍以上の応募の中から、抽選で30人の受講生が選ばれました。

### 〔第1回〕北上地区を歩く 講師望月一夫氏

三島駅北側の北上地区は、戦後の農村地帯から文教・住宅地への変貌著しい地域です。龍沢寺(白隠禪師・東嶺禪師開山)・歓喜寺(伊豆の長八の遺作)などの名刹や中世の山城徳倉城、集落の入口にたたずむ道祖神が紹介されました。(9月28日)

### 〔第2回〕錦田地区を歩く 講師迫田信行氏

大場川東岸から箱根にかけての錦田地域は水田と、丘陵部の畑作地帯が広がります。谷田城(渡辺氏の城館)や、お万の方と関係

が深い妙法華寺、山中城(小田原北条氏の城)を見学した後、東海道箱根西坂の史跡を訪ね歩きました。(10月7日)

### 〔第3回〕中郷地区を歩く 講師伊達主氏

三島南部の大水田地帯だったここも、住宅・工場・商店が多く進出しています。箱根丘陵に上る葦山道と向山古墳群を探訪し、下って源頼朝と関係が深い右内神社・宗徳院や、戦国武将開山の蔵六寺、石造物が多く残る泉福寺を訪ねました。(10月14日)

### 〔第4回〕旧三島町を歩く 講師辻真澄氏

今回は江戸時代に焦点を絞りました。郷土館で江戸時代の交通・三島宿の話聞いた後、三島宿の東はずれ新町橋から西の千貫樋まで史跡を見学しました。代官所跡・問屋場跡・本陣跡・助郷会所跡・御殿地跡・時の鐘・広小路・秋葉神社他を訪れ、三島宿の全容を理解しました。(10月28日)

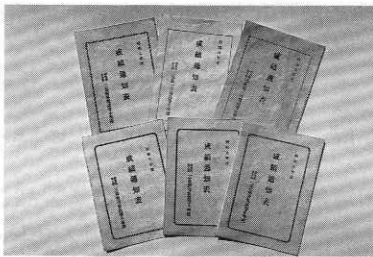
## 収集資料報告 (平成7年2月16日～)

平成7年に入って4件のご寄贈をいただきました。

収集月日	資 料 名	数量	提 供 者	提 供 者 住 所
H. 7. 2. 16	ジャノメシン 茶碗	1 2	坂倉和一郎氏	市内夏梅木880
々 2. 19	改正音訓古文経 完	1	宮内みゆき氏	市内新谷12
々 2. 26	レコード 賞状、成績通知表、音楽会曲目表、 他	多数 多数	小沢 勝久氏	東京都北区王子5-2-3-901
々 3. 9	内裏雛	1対	秋山 文男氏	市内東本町2-6-21

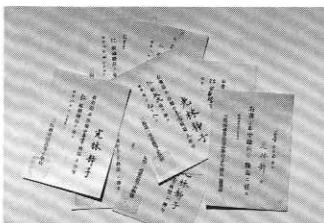
### 成績通知表

昭和5年から10年にかけての通信簿。科目には算術（算数）、修身（道徳）などがあり、評価は甲乙丙丁戊の5段階制。学校名が昭和7年度に、三島第一尋常高等小学校から三島南尋常高等小学校（現在の南小学校）に変わっている事が分かる。（実際の校名変更をしたのは7年度中の9月から翌年の1月にかけての事である）



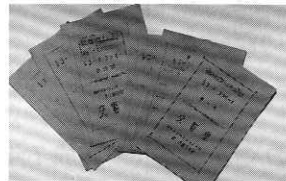
### 副級長任命書

戦争体制下ではクラス委員までにも学校長からの任命書が出されていた。



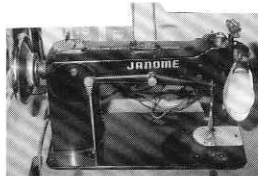
### レコードコンサート曲目表

戦後になって、レコードコンサートが自由に開けるようになった。昭和21年、西国民学校（現在の西小学校）では、わずか半年余りの期間に、有志たちの手で7回のコンサートが開かれた。ガリ版刷りの手作りの曲目表である。



ミシン

内裏雛



### 改正音訓古文経完 (写真なし)

「改正音訓古文経完」は、古書籍で、教科書に使用されたものです。

小沢氏からは多数のSPレコードを寄贈いただき、現在、目録を作成中です。

## 平成7年度郷土館企画展予定のお知らせ

三島市郷土館では平成7年度の企画展を計画しております。  
より多くの皆様のご来館をお待ちしております。

### 企画展

テーマ	期間予定	展示内容
①三島の成り立ち I	平成7年2月26日 ～5月7日	三島の自然環境の中に生まれ育まれてきた郷土の歴史を展示。旧石器・縄文・弥生史料、国分寺瓦、三嶋大社文書、市内寺院文書、山中城資料、他
②三島と戦争	平成7年7月23日 ～9月24日	終戦50周年を期して、三島に関わる様々な戦争関係資料を展示。衣・食・住、子供の生活、教育、軍需産業、連隊関係資料、戦争記録や体験、他
③米作りのくらし	平成7年11月3日 ） 平成8年1月15日	伝統的な米作りの過程や年中行事、農具、藁の民具を展示して日本の稲作文化を探る。三島の水田遺跡資料、稲作農具、藁製品、他
④人物シリーズ 並川 誠所 秋山 富南 吉原 守拙	平成8年2月5日 ～5月9日	江戸時代から明治時代にかけて三島に大きな教育的影響を与えた人物を取り上げ、その功績・業績を種々関係資料によって展示。

## 郷土館出版物のお知らせ

### □「三島宿本陣家史料集(11)」の刊行

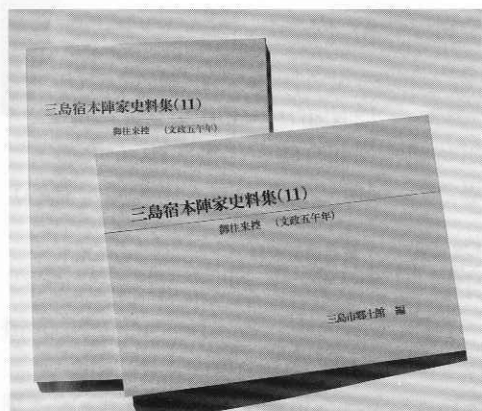
「三島宿本陣家史料集」の通巻第11号が刊行されました。最終巻で、昭和60年3月31日第1巻刊行以来、満10年の歳月を費し、ようやく完結いたしました。

三島宿本陣樋口家所蔵の古文書「御往来控」(文政五年)を解読した史料で、本書は、いろは順の「ま」から最後の項目までを収めたものです。

記されたそれぞれの往来者には、所属藩・寺院・神社や過去の通行年月日記録、出役した人馬の数などが記されています。

およそ百年間の往来記録としてきわめて貴重な歴史史料といえるでしょう。

本史料集(11)は、郷土館事務室受付で、頒価2,000円で販売しています。

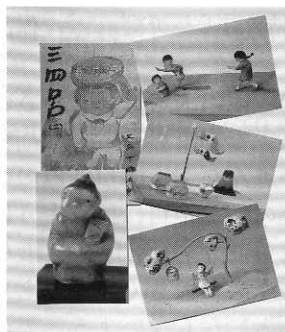


### □「三四呂人形絵はがき(二)」の作成・販売

郷土館では、昨年に続き、「三四呂人形絵はがき」シリーズの第二弾を作成販売しております。

この絵はがきの内容は、人形作家野口三四郎が創作した「春日庭」「迎春」「五月の賦」「影ふみ」の4枚を1セットにしたものです。袋にも、野口三四郎のスケッチ画「四季」より、「秋」と「冬」の風情を愛らしい男の子と女の子で表現した絵が描写され、「三四呂」の文字も野口三四郎の書体です。

この絵はがきは、郷土館事務室受付で1部100円で販売しております。



### □企画展「三島の成り立ち I」図録刊行

この図録は、企画展「三島の成り立ち I」～三島の自然環境・道・歴史～にあわせて作成したもので、本企画展の開催趣旨にそってくわしく解説したものです。

その内容をご紹介しますと

1. 三島の自然環境
2. 原始・古代の集落の変遷
3. 奈良・平安時代 伊豆の国府
4. 三嶋大社と源頼朝(鎌倉時代)
5. 室町時代一争乱の時代へー
6. 戦国時代の三島

と時代順の大きなテーマに分け、「私たちのふるさと三島って、どんな町だろう。」という素朴な疑問に答えるべく編集に努力しました。

三島がどのような自然環境の上に成り立ち、どのような歴史の変遷の下に発展してきたかを、発掘・発見された戦国時代までの文化財や資料等の写真もできるだけ数多く掲載し、理解しやすく工夫した図録は、良き参考書となるでしょう。

本図録は、1冊800円にて、郷土館事務室受付で販売しております。

企画展「三島の成り立ち I」をご覧になり、この図録を記念にお買い求めいただきますよう皆様のご来館をお待ちしております。

## 三四呂人形の修復完了

郷土館では、2階の常設展示室に1つのコーナーを設けて、ガラスケースの中に展示してある「三四呂人形」のうち、「里子」「桃子」「人形持ち」「ハチ公」の4作品を修復しました。

これらの三四呂人形は、製作されてから、既に50年以上も経ているため、胡粉が割れたり、褪色が進んだり、木目込みののりが変質している等の傷みが目に付くようになったため、このまま放置すれば、大事な市の文化財の傷みがさらに大きくなり、とりかえしのつかないことにならないよう、この時点で修復したものです。



里子



桃子



人形持ち



ハチ公

修復された人形も、生まれかわったようにきれいになり、心なしか喜んでるように感じられます。

郷土館では、来年度もひき続き、市の貴重な文化財である「三四呂人形」の修復・保存をしていきます。

### 利用案内

休館日 毎週月曜（祝日の時は翌日）  
12月26日～1月2日  
開館時間 午前9時～午後5時  
入場無料（但し、楽寿園入場の際、有料）



三島駅（南口）から徒歩5分。市立公園楽寿園内

### ご協力のお願い

今年は終戦50周年にちなんだ企画展を開催します。

当時の暮らしなどに関わる資料の提供にご協力をお願いします。

おもちゃ、教材、衣服、生活用具、配給切符、召集令状、日記、郵便物、写真、連隊関係どんなものでも結構です。郷土館までお知らせ下さい。

連絡先

三島市郷土館

一番町19-3 楽寿園内

電話 71-8228

郷土館だより No.51

平成7年3月31日発行

(年3回発行)

編集 三島市郷土館

住所 〒411 三島市一番町19-3 楽寿園内

TEL 0559-71-8228

FAX 0559-81-3730

発行 三島市教育委員会